

## 実施報告書

石巻市立大街道小学校における安全セミナー  
～平成24年度被災地教育復興支援事業～

- 日時 平成24年9月13日(木)  
2時限 午前9時30分～10時15分  
1・2年生  
3時限 午前10時35分～11時20分  
3・4年生  
4時限 午前11時25分～12時10分  
5・6年生  
合計330名

- 場所 石巻市立大街道小学校 体育館  
(宮城県石巻市大街道南1丁目3-1)

### ■参加者

- 講師：2名 (小田啓二、丸野典子)  
アシスタント：2名 (桐蔭横浜大学2年生)  
記録：2名  
(事務局職員1名、仙台支部1名)  
コーディネータ：1名 (大和田尚子)  
オブザーバー：1名 (阿部浩氏)  
(石巻中央LC)  
合計8名



### ■支援物資(差入れ、ご寄贈等)

- 1、公益財団法人ライオンズ日本財団  
◎防犯ブザー (@450円×330個)



- 2、石巻中央ライオンズクラブ  
◎宿泊場所(ボランティアセンター)  
3、東京赤坂ライオンズクラブ  
◎現地紹介 (石巻中央ライオンズクラブ)  
4、丸野典子(GA草加支部)  
◎草加煎餅(360枚)

### ■活動資金(交通費等)

- 1、文科省  
平成24年度被災地復興教育支援事業  
(概算払い：年内見込み)

### ■プログラム

- 1、自己紹介  
2、体操  
3、お話し

ルールは、みんなの命を守るためにある。  
交通、学校、家庭のルールを守ろう。  
一人になったときの、自分の身を自分で守る方法を勉強しましょう。

- ① 気づくこと
- ② 逃げること
- ③ 知らせること
- ④ あきらめないこと



## 1、被災当時の学校の様子（ヒアリング）

- ・親を失う、家を失うなど全児童が何かしらの被害に遭っている。
- ・仮設住宅から通う児童もいる。
- ・大街道小学校は、昨年3月11日の津波発生時は、緊急避難場所となり、1200名の市民を受け入れた。
- ・自衛隊が救助に入ったのは、被災後3日後であったため、3日間は男性が中心となり、人命救助を行った。
- ・取り残された人を救うには、30メートル先でも、装備のない中、寒さと泥が障害となり困難を極めた。着替えがないため児童が学校に置きこんでいる体育着を借用（後で叱られた）
- ・食料と水の確保。老人、子どもを優先した自助努力。

- ・水の配給は、一人おちょこ1杯。
- ・大人は、食事は摂らなかった。
- ・保健室が、一時的な遺体安置所となった。
- ・避難所では、プールの水をトイレ用水としてバケツでくみ出した。  
(その後、排せつ物は、各自新聞紙に包んでグラウンドに掘った穴に入れた)
- ・食料、水は、住民の合意を得、泥中の冷蔵庫を探して調達した。

- ・被災後は、親せきを頼り転出する児童や、復興の仕事に携わるため親の都合で、転入する児童も多く、児童数は、安定していない。
- 9月13日現在324名、教諭30名。
- ・当日は、午後から害虫（毛虫）駆除がある。昨年、銀蠅が異常発生した。



## 2、実施するにあたっての工夫点

- ・「津波」「たいへんだったね」「もう大丈夫？」との声かけはしない。
- ・毎月、臨床心理士がカウンセリングに入り、心のケアを続けているので、通常の安全セミナーを心がける。
- ・不審者事案があるので、知らない人との距離感を伝え、危険を察知する方法を伝える。
- ・緊張をほぐし、脳の活性化を図る「フリフリ・グッパ体操」をセミナーの最初に導入した。学生2名と大和田（東京赤坂LC）が、インストラクターとなり実施。
- 音楽は、低学年には、「あんばんまん体操」、中高学年には、「嵐～ハピネス」を使用。

### 3、児童の様子

- ・防犯ブザーは、今までの経験により使い勝手、価格、デザイン等が好評である「あんしんてんとうくん」を、公益財団法人ライオンズ日本財団から寄贈していただいた。
- ・実施前日まで、学校あてに到着するように手配。配布方法は、学校側に一任。責任を持って配布すると約束、たいへんに喜んでいただいた。
- ・笑顔が多く見られた、日頃の先生や地域の方の努力の成果であろう。
- ・阿部氏には、セミナーのサポートをお願いし、助けてくれる大人を演じていただいた。阿部氏があいさつで、児童にボランティア

センターの存在について聞いたところ、ほとんどの児童が場所を知っていた。日中は、誰もいないので「子ども110番の家」の機能がないことを説明。近所には、他にも駆け込む場所はたくさんあるが、子どもたちのちょっとがっかりした様子が、印象に残った。「みんなが楽しく安全に暮らせることを願っている」と、頼れる大人が、近くにいることを示してくれたことは、有難かった。

- ・今後の課題は、毎年継続すること（活動資金の調達等）と、内容の検証を全児童と教諭に依頼したアンケートを参考にすることとした。

---

### ■感想

東日本大震災で「釜石の奇跡」と呼ばれるエピソードは、市内3000人の小中学生のほとんどが助かったというものである。

これは、群馬大学片田敏孝教授が、2004年に発生したインド洋津波の被災地調査に出向いた後に、釜石市での防災教育において、①想定を信じるな ②最善を尽くせ ③率先避難の者たれという、「避難の三原則」を、児童生徒に徹底して教えてきた成果だと言われている。

これは、防犯教育でも同じことが言える。自分は安全だと思いこまない、気づく、逃げる、知らせる、あきらめないことが、「自分で自分の命を守る」ために、重要なポイントである。大人から子どもに、真剣に教える必要性を改めて感じた。

そのために、日頃からの練習、訓練を繰り返し行うのである。「命を守ること」は、地震や津波などの自然災害発生時には、強く意識しなければならない。しかし、日常の生活においても、危険な目に遭わないための心構えや、行動面において防犯セミナーの体験が、「自分で身を守らなければならない事態」において、役立つことがわかった。

今回、訪れた地域では、小学生のみならず教諭も地域住民も、我々に接する態度は、親切で明るかった。しかしそれぞれが前代未聞の辛い体験に、想像以上の緊張と不安の中で暮らしていると思う。

仙台市から石巻市への幹線道路脇には、新築の建物ばかりで、斎場や仏壇店が目立つ。山には、建てられたばかりの墓が立ち並び、仮設住宅には、ゴーヤなどのツタが、窓を覆う長さに伸びており、改めて1年半という時間を感じ、悲しみが増した。

帰路の途中、阿部氏のご厚意により、大勢の児童と教諭が亡くなった大川小学校跡に行った。新北上川の堤防が小学校の敷地より高い場所にあり、川の水の動きに気がつかず、逃げ遅れた状況がよくわかった。平日にも関わらず、お線香をあげに来る人がひっきりなしにいた。外国人も多かった。口ぐちに「かわいそうだったなあ」と、言っていた。

今回の訪問で、安全セミナーの重要性を再認識できた。  
また、大街道小学校の元気な子どもたちの笑顔に接しこのような機会を与えていただいた皆様に、心より感謝します。ありがとうございました。  
これから、まだまだ遅れている復興がもっと進むよう願っています。

石巻市立大川小学校校舎



展望台からの北上川



特定非営利活動法人日本ガーディアン・エンジェルス

〒104-0033

東京都中央区新川1-29-13 永代橋エコピアザビルB1

TEL : 03-3523-5300

FAX : 03-3523-5366

E-mail: info@guardianangels.or.jp